

社会福祉法人 にじの家
グループホーム にじいろ
令和7年度 地域連携推進会議

次 第

開催日時：令和 7年11月 6日(木) 14:30～15:30

開催場所：グループホームにじいろ リビング

- 議 事：1、開会あいさつ 斎藤
- 2、理事長あいさつ
 - 3、自己紹介
 - 4、ホーム内の見学
 - 5、地域連携推進会議の目的及び内容の確認
 - 6、運営状況等の説明
 - 7、今後の町内会様との関わり(協力体制等)
 - 8、質疑応答
 - 9、その他
 - 10、閉会あいさつ 高野統括支援員

社会福祉法人 にじの家 共同生活援助事業所 グループホーム にじいろ

令和7年度 地域連携推進会議

議事の経過と要領

【 議事内容 】

次第に則り、グループホームにじいろ主任支援員山口正樹の司会進行にて開始される。グループホームにじいろ 施設長 斎藤暢一から開会の言葉があり、地域連携推進会議がスタート。その後、社会福祉法人にじの家 理事長 鈴木春美より当法人の沿革等の説明、当該委員へのお礼の言葉を述べられました。

次に各委員より自己紹介を頂き、その後、主任支援員山口正樹が案内役となり、ホーム内を見学して頂きました。その際「とても明るく、生活のし易さを感じ取れる作りになっている。」「車いすを利用している利用者も居られるようだが、廊下幅や居室入り口が広くなっているなど、考えられている建物だという印象だ。」などのご意見を頂き、改善を求めるようなご意見はありませんでした。

施設長斎藤暢一より改めて地域連携推進会議の目的及び内容の確認説明を行いました。「この町内に障がい者が住む施設があることは知っていたが、実際どのような方（どのような障がいを持つ）が住んでいるのか、また、どのような関わり方を持てばいいのか悩んでいた。この会議をきっかけに町内会の皆様に発信できればと思っている。」とのご意見を頂き、施設長斎藤暢一より「私どももこの会議を機に、様々な機会を作り町内会様はもとより、隣組様とも協力体制を構築して参りたいと考えています。」と回答しました。

施設長斎藤暢一より当該事業所運営状況等の説明がありました。「利用者から預かっているお金の管理（月初めに施設長・統括にて前月末の残金と台帳を照らし合わせている）や食材費も3か月ごとに確認し、年度末には翌年度の運転資金として1万円ほどの残金に留めるなど、しっかり管理されているのが分かった。」「光熱水費については、利用者負担額の総額以上の事業所負担があるようだが、大丈夫なのか。」などのご意見を頂き、施設長斎藤暢一より「利用者の皆さんからお預かりしているお金やご負担金については、慎重かつ厳正な取扱いを心がけています。また、ご負担金に関しましては、適正額を再考したく考えています。」と回答しました。

統括支援員高野美和より利用者の状況、特性等の説明がありました。「障がいの程度が一人一人違う中で、しっかりとした職員体制で取り組んでいることがよく分かった。今後も利用者が安全、安心できる環境を整えていただきたい。」「町内として、協力できることがあれば協力していきたい。」などのご意見を頂きました。

施設長齋藤暢一より今後の町内会様との関わり（協力体制等）について、考え及び依頼の説明がありました。

「有事の際、ホームに対しての対応について町内会でも話題となっていた。今後、お互いにはできることは協力し、連携していかなければならないと思っている。」とのご意見を頂きました。

「大変良い返事を頂き感謝します。町内会のイベントなどにも参加できる機会があれば、グループホームにどんな人が住んでいるかを知ってもらえるよい機会と考えています。」と回答しました。

【 質疑応答 】

「町内会では「ビアガーデン」を開催している。グループホームで企画しているイベントで町内会の方が参加できるようなものはあるのか」

主任支援員山口正樹、統括支援員高野美和より「今のところは、町内会の方が参加できるようなイベントはありません。まずは、避難訓練時に利用者の見守りなどに参加して頂ければと考えています。」「これから町内の方参加型の行事なども考えていきたいと思いません。例えば、花見や芋煮会が考えられるので参加してもらえればと思います。」と回答しました。

「本体の通所事業所では、毎年お祭りを開催している。ホームでは、支援体制上大きなイベントを開催するのは難しいと思います。また、地区の交流の場に障がいのある方が出向くのは、娘が小さい時には人目もあり抵抗があって難しかった。まずは町内の役員の方にそのお祭りに参加してもらい、どのような利用者があるのかを知ってもらうのも理解が深まり良いのではないかと。その上で、役員の方からこんな人、こんな施設だと町内の方に発信してもらえると有難い。交流を深めてからホームイベントの流れでどうか検討してほしい。」とのご意見を頂きました。

施設長齋藤暢一より「以前の職場のグループホーム建設の際に、地域説明会の段階で隣組の皆さんから反対を受けました。皆さんから「障がいを持っていても地域で暮らすのは当然だが、なぜ、この地区に住むのか」「職員がいない時間帯に問題が起きた場合のどうするのか」など、理解をしてもらえず、結局、夜間支援や休日には24時間支援体制に変更し、理解を得て設立した経緯がありました。隣組の方は、誰しもが年を取ることで老人福祉施設に対する理解はあっても、障がい者福祉施設への理解は薄く、不安が大きかったようです。開設後、隣組の方との交流を深める中「最初は様々不安があったが、今は普通の人と変わらない」と理解いただけました。障がい者を知らない人が身構えるのは当然の事であると思います。そのため、地域での生活で障がい者の理解をもらうには、私たち支援者が間に入り、積極的に地域の皆様との交流、発信をしていくべきと考えています。皆さんは、今まで障がい者に対して、「どんな人なのか」など身構えや不安はなかったでしょうか。」と回答しました。

「今まで関心がなかった。ここに施設がある事は知っていたが、どんな人が住んでいるのかなどの情報もなく、コミュニケーション不足だったと思う。町内会の総会などでPRしていきたいと考えている。夏休みは町内会でラジオ体操をしているので参加してもらっても良いのではと思っている。これからは、町内に色々な情報を発信して欲しい。」

「この度の会議で手厚い支援をしていることが分かったので、町内への発信をしていきます。」とのご意見を頂きました。

施設長齋藤暢一より「今まで発信不足、情報がないことで不安を与えていたことに関してはお詫びします。今後は情報発信にも力を入れていきたいと思っていますので、まずは役員の方から知っていただき、相互協力をしていければと考えますので、今後とも宜しくお願い致します。」と回答しました。

その他として、各委員より特に議案やご意見等がありませんでしたので、統括支援員高野美和より閉会の言葉があり、閉会いたしました。